

-----  
[ 成果情報名 ] 側枝への環状剥皮によるカキ「富有」の果実品質の向上

[ 要約 ] カキ「富有」を側枝単位で環状剥皮することで、樹勢を低下させずに着色と果実肥大が促進され、果実糖度が上昇する。日持ち日数は処理により短くなる。6～8月に処理すると果実品質の向上効果が高く、処理時期が早いほど癒合が良い。

[ キーワード ] カキ、果実品質、果皮色、肥大、富有

[ 担当部署 ] 果樹部・果樹育種チーム

[ 連絡先 ] 電話 092-922-4946

[ 対象作目 ] 果樹

[ 専門項目 ] 栽培

[ 成果分類 ] 技術改良  
-----

[ 背景・ねらい ]

近年の秋季の気温上昇により本県では、カキ「富有」や「松本早生富有」が着色不良となり、このことが本県産カキの市場評価を低下させる一因となっている。これまで、「富有」などの主幹部に環状剥皮をおこなうことで、着色向上、肥大促進効果があることが知られているが、樹勢の低下を招く等の問題があり、現在は実施されていない。そこで、側枝単位で環状剥皮処理をおこなうことで果実の肥大や着色を向上させ、本県産カキの評価を高めるための特選品生産を図る。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1 . 側枝に環状剥皮をすることで、果実肥大と果皮の着色が促進される( 図 1、2、表 1 )。
- 2 . 6 月から 8 月にかけて環状剥皮をすることで着色の向上効果が高い( 図 3 )。
- 3 . 環状剥皮をすることで果実糖度は高くなる。果実の日持ち日数は短くなるが、生食用としての日持ち性は十分ある( 表 1 )。その他の果実品質には、処理による明確な差はみられない。
- 4 . 処理時期が早いほど癒合が良好で、樹勢の低下はみられない( データ略 )。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1 . カキ「富有」における果実品質向上のための参考資料として活用できる。また、「松本早生富有」にも同様の効果がある。
- 2 . 環状剥皮は樹勢の強い樹を対象に行い、樹勢の低下を防ぐため全結果数の 1 / 3 程度までとする。
- 3 . 環状剥皮は、更新の対象となる側枝を主体に 1 cm 程度の幅で行い、処理後にはテープで被覆することで癒合を促進させ、枝幹害虫に処理部を食害されないようにする。
- 4 . 処理により着色が促進するが、早採りとならないよう、適正な収穫期を遵守する。
- 5 . 剥皮処理した果実は、冷蔵には用いない。

[ 具体的データ ]

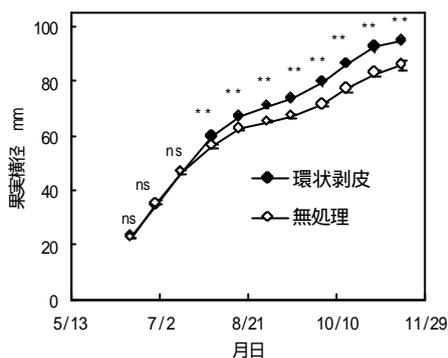


図1 環状剥皮処理の有無と果実肥大の推移 (平成18年)  
 注) 1. 剥皮処理時期は6月28日  
 2. \*\*は1%水準で有意差あり、nsは5%水準で有意差なし(t-検定)

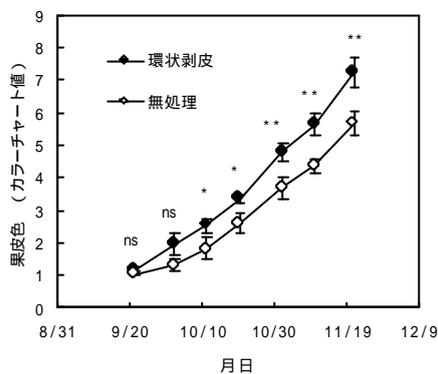


図2 環状剥皮処理の有無と果皮色の推移 (平成18年)

注) 1. 剥皮処理時期は6月28日  
 2. \*, \*\*はそれぞれ5%, 1%水準で有意差あり、nsは5%水準で有意差なし(t-検定)

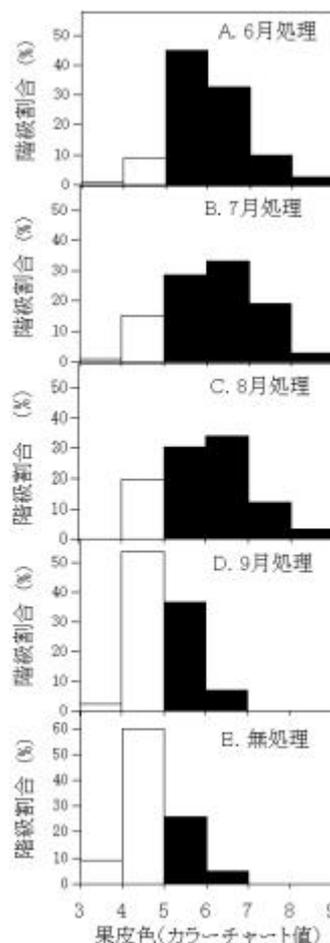


図3 剥皮処理時期の違いと果皮色 (平成19年)  
 注) 1. 11月14日に一斉収穫した  
 2. 黒のカラムは、果皮色6以上の着色良好な果実を示す

表1 環状剥皮処理が果実品質に及ぼす影響 (平成19年)

処理時期	果重 (g)	汚損	果頂裂果	へたすき	果肉硬度 (kg)	種子数 (個)	果実糖度 (%)	日持ち日数 (日)
6月20日	311a	0.0	0.2	1.3	2.2	5.3	16.6ab	27.8b
7月20日	316a	0.0	0.3	1.1	2.2	4.5	16.8ab	28.1b
8月20日	298ab	0.1	0.3	1.2	2.0	4.8	17.6a	34.4ab
9月20日	284ab	0.0	0.1	0.6	2.3	4.9	17.4ab	39.4a
無処理	266b	0.0	0.3	1.0	2.4	5.0	16.3b	36.4a

注) 1. 剥皮後、ガムテープで処理部位を被覆した  
 2. 11月14日に一斉収穫した。日持ち日数は、指で触って僅かに柔らかくなるまでの日数とした  
 3. 汚損とへたすきは無(0)~大(3)、果頂裂果は無(0)~甚(4)で指数化し、その平均値で示した  
 4. アルファベットは、Tukeyの多重分析により異符号間に5%水準で有意差があることを示す

[ その他 ]

研究課題名：カキ、ナシ等品種・系統適応性  
 予算区分：経常  
 研究期間：平成19年度 (平成18~19年)  
 研究担当者：千々和浩幸、藤島宏之、白石美樹夫